（１）令和５年度　飛騨市立古川小学校　学校経営の重点および自己評価　　校長　下出　尚弘

市教育委員会 学校教育の方針	市学校教育の重点	学校教育目標	育てたい資質・能力	目指す児童像	学校の重点	市の重点との関連	指導の柱	具体的な実践内容・観点	評価A～D	分析と改善点
志を語り合い　しなやかに　挑み続ける飛騨びと　を育む	①②③家庭・地域と学校の協働による特色ある教育の推進 一人一人が大切にされる学校づくりの推進 主体的・対話的で深い学びの具現による資質・能力の育成	心豊かにたくましく　未来を切り拓く	未来を切り拓く力	「みんなと」力を合わせて取り組む【自他の尊重・協働】 「自分なら」自分の考えをもち工夫する【当事者意識・創造性】 「自分から」進んで行動・挑戦する【主体性・積極性】	仲間と共に粘り強く挑み続ける児童の育成	①	飛騨市が目指す「学び」づくりの具現	・期ごと（１～４期）に重点目標を定め、児童の目指す姿と手立てを明確にする。	A	○４つの期の重点が導入、個人追究、交流（深まり）、振り返りと、授業の流れに即したものになっており、各期の目標を特に大切にしながら、継続的に指導することができた。 ▲重点を学年に具体的に落とし込むことと、指導の成果を確認することがあいまいだった。 →重点をもとにした具体的な姿を学年会で明確にし、各学級で定めた目標について振り返りを行う。 →月に１回、指導部会において進捗状況を確認する。
								・「深める」姿の具体を共有し、授業改善に取り組む。	B	
								・授業の中の生徒指導「４つのポイント」の実践と自己評価を行う。	B	
							ICT機器を効果的に活用した授業の工夫改善	・ICT活用を推進する若手職員や、ICT支援による指導の場を位置付ける。	B	
								・職員のニーズに応じた研修の工夫と研修時間を確保する。	B	
							校内研究の充実（R6市指定公表会）	・研究の視点に沿った全校研（３回）と部内研（各部１回）を行う。	A	
								・R6公表会の重点を定め、各部会ごとに教科の言葉で明確にしたものを作成する。	A	
					ふるさとに誇りをもち自他の命を大切にする児童の育成	③	「古川やんちゃ学」のカリキュラムの整備と充実、FA（ふるさとアドバイザー）との協働	・学校とＦＡ（ふるさとアドバイザー）の願いを共有し、持続可能な総合カリキュラムを作成する。	B	○命の尊さや多様性の尊重など、これまでの活動を通して学ぶことができた。 ▲FA創設４年目を一区切りとして、カリキュラムの見直しや精選をさらに進めていく必要がある。 →全体計画へ「命の教育」を位置付け、全学年で指導する。FAとの連携の在り方を共有する。
								・「古川やんちゃ学」と「教科学習」をつないだ課題解決型の学習づくりを行う。	B	
							貫くテーマ「ふるさと＆いのち」に基づく目的や価値の見直し	・「ぎふ いのちの教育」をもとに、活動の目的や価値を見直す。	A	
								・ふるさと、命を大切にする思いを生活に生かせるように指導する。	B	
					自己肯定感・自己有用感がもてる児童の育成	②	児童や保護者が早期に相談できる教育相談体制の充実	・児童の様子や保護者からの連絡について、報告・連絡・相談を確実に行う。	B	○「古小ライブ」（児童自身がよさや持ち味を発揮する場）を設定したことで、表現力や自他を尊重する心が育ち、自己肯定感や有用感が高まった。 ▲保健室登校の児童が目立ち、本来の養教の業務に支障をきたしている。 →保健室以外の居場所づくり（相談室や特別教室の一角など）と個に応じたチームを編成し、対応する。 →「ふらっと」や「はびりす」等、関係諸機関の助言を生かしながら作戦を立てる。
								・早期対応のために、当該学級を中心にフリーの職員が見守り、支援する。	A	
							特別な支援を要する児童に対する支援体制の整備・充実	・支援員やスタサポ、関係機関と連携し、保護者とともに支援する。	A	
								・相談室、ひまわり広場、保健室などを活用し、確かな居場所を作る。	B	
							児童が自分のよさを自覚できる取組の工夫	・よさや持ち味を発揮できる場や機会を、児童会が中心となって作る。	A	
								・終わりの会の「よいところ見つけ」や昼の放送「ええところ」を継続して行う。	B	

学校運営協議会における主な協議内容	
	○「自分にはよいところがある」「人の役に立つ人間になりたい」の項目について、子どもたちの意識が非常に高いことが分かる。児童が安心して先生方とともに学べる関係を、学校が築いていることが想像できる。 ○学校運営協議会と児童と語る会を設けて、児童の思いや願いを共有しながら、ともに活動できたことが大きな成果である。 ※教室に入れない子にも温かい支援をしていきたい。地域人材の活用を考えていけないか。 ※古小サポーターのすそ野が広がるように、やれる範囲でやれることに取り組んでいきたい。 ※常に「未来を切り拓く」児童を育成することを目指して、児童の「こうしたい！」の願いに対して「やってみよう！」の励ましや助言をしていけるとよい。